



木



病院機能評価を終えて

名城病院長 早川 哲夫

名城病院では「良い医療を安全、確実に、いつでも提供できる」ように心がけております。

これはやさしいようで、たいへんむづかしいことです。医療を受ける側にとっても、質の良い医療を受ける病院を選ぶことは簡単ではありません。良い医療とは必要で十分、すなわち、多すぎず、少なすぎない治療を確実に行うことです。そのためには病気と病院のミスマッチをさけることも大切です。患者さんの大病院集中は医療を受ける側も提供する側もつかれといららが増します。

わが国では、良い医療を安心して受けられるように、病院の機能評価を中立的な立場で評価できる第三者機関として日本医療機能評価機構が設立されました。現在までに、全病院（九二二九）中約二、〇〇〇病院が病院機能評価を受審し、認定を受けております。

主な評価項目を挙げると、病院組織の運営と地域における役割、患者の権利と安全の確保、療養環境と患者サービス、診療の質の確保、看護の適切な提供、病院運営管理の合理

性などです。名城病院の場合を例に機能評価のあらましを説明します。昨年九月に受審の申込みをし、今年六月に書面審査を受け、七月末に七人の審査員が三日間をかけて病院を細部にわたりチェックしました。受審の最終結果が出るまでには三ヶ月以上必要とのことでしたが、十月二十日付で認定証をいただくことができました。

病院機能評価を受けると、病院の現状を客観的に知ることができ、医療の質の向上と効果的なサービスの提供につながる改善ができます。名城病院でも受審にそなえ、多くの改善を致しました。受審最終日の講評では、医療の質や安全などに関する改善勧告はみられませんでしたが、病院の理念にかかげた「良い医療を安全確実に」という基本目標への努力に対しては高い評価を得たと思えます。

名城病院では病院機能評価受審を機会に良い医療を安全確実に提供するとともに、皆様方に安らぎと満足の得られる病院をめざし、一層の努力を続けてゆきたいと考えています。



合格
病院機能評価認定病院に

平成15年7月30日～8月1日に受審した日本医療機能評価機構の審査結果が10月21日届き、当院は病院機能評価認定病院の認定を受けました。

当院が受審した病院機能評価のバージョンはVer.4と最新で、現在までのところ、認定を受けている病院は愛知県内で当院を含めて6病院のみです。



アイドリングストップ
のお願い

平成15年10月1日より名古屋市内ではアイドリングが禁止されています。

駐車時にエンジンをかけっぱなしにするアイドリングは、地球温暖化や大気汚染、騒音を防ぐために条例で禁止されています。



盗難にご注意

最近、面会者にまぎれて病院内に入り込み金品を盗む病院荒らしが頻発しております。被害に遭われないよう貴重品等には十分ご注意ください。



内視鏡下手術

産婦人科部長
正橋 鉄夫

内視鏡とは体腔内（普通の診察では観察できない体の中のことです）の病巣を肉眼や映像で観察し、診断や治療をする器具です。

胃や腸それに子宮の中などは口や肛門、子宮口などからカメラを入れてやればよいのですが、おなかの中を見る腹腔鏡では小さい傷をつけてカメラを入れなくてはなりません。しかし開腹手術に比べるとはるかに小さな傷でおなかの中を見ることが出来ます。

内視鏡は元々は観察するための器具として開発されたのですが、最近では胃カメラや大腸ファイバーで観察だけでなくポリープ切除などの処置が行えることはみなさまもよくご存じのことと思います。また現在外科系の各科で内視鏡下手術が盛んに行われていますが、産婦人科領域でも以前は観察して診断するだけの道具であった腹腔鏡や子宮鏡といった内視鏡を利用して、様々な手術が行われるようになってきました。

名城病院産婦人科では良性卵巣腫瘍、子宮内膜症、未破裂子宮外妊娠に対しては原則として、また

子宮筋腫に対しては症例を選んで腹腔鏡下手術を行っています。

子宮筋腫とくに子宮の内側に顔を出している粘膜下筋腫と呼ばれるタイプの筋腫に対しては、子宮鏡下に（つまり開腹手術をすることなく）筋腫を切除するTCRという手術を行っています。

現在医師3名で診療を行っていますが内視鏡に関しては3名中1名は20年以上、他の2名も10年以上の経験があり現体制になった平成13年7月以降140件の内視鏡下手術を行っております。

内視鏡で手術を行うメリットはその手術侵襲が少ないことです。つまり傷が小さいから痛みが少ない、食事をすぐ食べることが出来る、すぐ歩くことのできる等々手術に伴うストレスが小さく、入院期間も短縮できるというわけです。

今後産婦人科疾患、特に良性疾患の手術にはますます内視鏡が利用されると思われます。

このように書いてくると全ての手術が内視鏡で行えるような錯覚に陥ってしまいますが内視鏡にも限界があり、無理をすると大きなトラブルにつながる場合があります。私たちも癒着（子宮、卵巣、腸、おなかの壁などがくっついていて）が強度であると考えられる場合など内視鏡下手術が適当

ではないと判断した場合にはその旨を患者さんに説明し開腹手術を選択するようしております。もちろん内視鏡下手術の途中で開腹手術に移行することもあります。

内視鏡では細い管からハサミなどの鉗子と呼ばれる器具を挿入して手術をするわけですが、鉗子の先が自由に動くわけではないので思うような操作ができないことがしばしばあります。このへんが内視鏡の限界につながるわけですが、このような欠点を補うものとして、鉗子の先が人間の関節のように自由に動かせる手術ロボットと呼ばれるシステムの開発がすすんでいます。

手術ロボットとはいっても実際に操作するのは医師なのですが、患者さんから離れた場所で内視鏡の画像を見ながら鉗子操作します。日本でもこのシステムを導入している病院がありますが、まだまだ一般的な技術とはいええない状況です。

手術はこれからさらに患者さんの負担を軽くする方向へ進むと考えられます。近い将来手術ロボットを使う手術が当たり前になるかもしれません。そして画像診断のデータを入力すればコンピュータが手術をする…なんていう時代もくる???かもしれません。



療養病棟について

療養病棟管理部長
服部 正樹

名城病院の療養病棟は、医療保険型の療養病床として、今年4月1日に10階に47床でオープンしました。

高齢者の割合は年々増えている中、一般病棟における平均在院日数が年毎に短くなっております。そこで長期にわたり入院治療が必

要な患者様のための病床の確保が必要となり、10階病棟を療養病床として運用することになりました。

療養病棟では急性期疾患の精査、治療は行いません。

慢性期の落ち着いた状態の患者様の継続治療およびリハビリテーションを主体として、多少入院が長期になっても病状の回復や、日常生活動作を改善していくことを目指しています。

療養病棟では、ほとんど検査や点滴、注射がないため、時間の進

行がややゆっくりとなり、それぞれの患者様にとって心地よい入院生活ができる環境になっております。スタッフ一同、それぞれの患者様に十分なケアができるように日夜努力しております。

入院期間は6ヶ月を限度とし、原則として在宅ケアへの移行を目標としております。スタッフがそのお手伝いをしております。

入院中に新たに急性期疾患の精査、治療が必要となった場合は一般病棟に移って加療していただいております。



病診連携とは

地域振興推進室長

古澤 英雄

わが国では現在、医療機関の機能分担が進められています。個々の医療機関が単独で医療を提供するのではなく、それぞれが役割、機能を分担し、お互いに連携しながら地域の皆様方に対し効率的、効果的な医療を提供していこうというものです。その根幹となるのがかかりつけの先生です。

かかりつけの先生とは、日頃から患者様やご家族の健康、病気に対して相談に応じてくれる身近な開業医の先生のことです。

病気になったりけがをしたらず、ご近所のかかりつけの先生

の診察を受けるようにして下さい。

かかりつけの先生が診察をして、より精密な検査や専門的な治療や入院による治療が必要だと判断した場合には、その病気・けが等に最も適した医療機関をご紹介します。

ご紹介をいただいた病院の医師は、かかりつけの先生に患者様の症状経過を報告しながら治療をすすめていきます。そして、ある程度軽快・治癒した段階において、今度は逆に病院から、かかりつけの先生に、病院での治療経過の報告とともに、今後の治療等が委ねられます。(逆紹介)

このように病院と診療所等が連携し患者様の治療を行うことを病診連携といいます。

本院でもこうした病診連携を進

めており、医院・診療所等の先生方からの紹介状をお持ちいただければ、病院の医師は患者さんの状態を的確に把握し、重複した検査等は省略することができ、患者さんに必要な診療や説明に時間を費やすことができます。

患者様にとって必要な診療、患者様が納得できる説明といった診療を実施するため、当院を受診される際には、かかりつけの先生からの紹介状をお持ちください。

また“かかりつけの先生を持ちたいけれど、どの先生が良いのかわからない”という方には、当院の医師より紹介させていただきますので、どうぞお気軽にご相談ください。

平成14年2月より地域振興推進室を設置し、病診等医療機関の円滑化を目指しております。



テレビドラマのロケ隊来る

12階病棟

佐藤 いつ子

去る10月25日(土) 当院12階病棟にて、テレビドラマの収録が行われました。

NHK名古屋放送局制作、来年1月から放送される大島弓子原作の「ちょっと待って、神様」です。

12階の特別室で約2時間半にわたって、交通事故後、病室で目を覚ますシーンが収録され、約50名のスタッフや出演者が来院されました。

当日は、土曜日にもかかわらず多数の方々が見学を訪れて収録を見守っていましたが、なかでも宮崎あおいさんのファンの患者さんが念願かなって一緒に写真を撮っている姿が、とてもうれしそうでした。係の方の要望でモニター機械や点滴台を準備したり、ベッド

操作の説明など私達もスタッフの一員のような気分になりました。

病室の中で2人だけのシーンでも周りにはあんなに大勢のスタッフがいて、注目されているのだと思うと、俳優さんという仕事もつくづく大変だなあと感じました。

放送は1月5日(月)午後11時～11時15分、月曜日～木曜日(全20回)総合テレビにて開始されますが、当院のシーンは第2回の1月6日(火)に放送されます。皆さんも是非ご覧下さい。



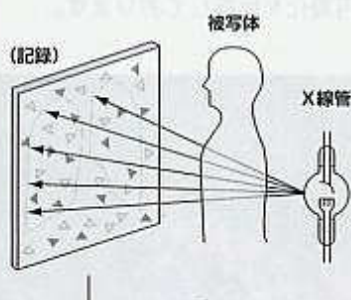
放射線 Q & A

放射線科

名城病院放射線科には最新鋭の一般撮影装置が整備されています。今回はCRシステムについてお答えします。

Q 従来のフィルムシステムとCRシステムとの違いは？

A 従来のシステムは被写体を透過したX線をFilmに記録し現像処理を行い、X線写真としていました。CRシステムではFilmではなくイメージングプレート (IP) という媒体に記録します。IPに記録された情報はデジタル処理を行い、レーザーでプリントしX線写真として提出しています。



Q CRシステムの特徴は？

A 最大の特徴は画像情報がデジタル化されている点です。デジタル情報は保存、配信での劣化が無く、Networkでの情報交換が可能になりました。また、IPは高精細で感度域が広いためあらゆる状況に対応が可能です。

Q CRシステムは被曝を少なくできる？

A 従来のシステムのX線量は記録媒体の感度で決まっていた。被曝を少なくするためにはFilmの感度をあげたりするなど少なからず写真の質が落ちたりしていました。

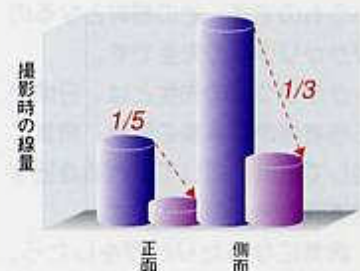
CRシステムでは撮影目的、部位、年齢、体格などを考慮したプロの技術で患者様個人に対してX線量を最適にコントロールすることで患者様に対する被曝量を大幅に少なくすることが可能となりました。最適なX線量で得られた情報はデジタル画像処理での特徴を生かし写真の質を向上させてX線写真として提出しています。

Q 被曝低減の例を示してください

A CRシステムは、低年齢の患者様の撮影が多い全脊柱撮影で威力を発揮しています。

正面 (前後方向) 撮影が従来法の5分の1のX線量で撮影が可能になりました。

放射線科では患者様の被曝を低減し、最大の情報が得られるように努力しております。安心して検査をお受けください。



名城病院診療等のご案内

■ 診療科目

内科・循環器科・小児科 (小児循環器)・外科
 整形外科・脳神経外科・心血管外科・皮膚科・泌尿器科
 産婦人科・眼科・歯科口腔外科・神経内科

※神経内科及び午後の診療等、詳しくは 医事課 (052)201-5311
 内線2132 にお問い合わせ下さい。URL <http://www.kkr.or.jp/meijo>

※療養病棟に関するお問い合わせは、医療ソーシャルワーカー 内線5104 まで

■ 診察受付時間

新患受付 午前8:30~11:30まで
 再来受付 午前8:00~11:30まで

■ 面会時間

平日 午後0:30~8:00まで
 土・日・祝 午後0:30~8:00まで
 但し、小児科病棟は、午後7:00まで
 午後0:30~1:30まで
 ベビーの面会は、午後3:30~4:30まで } の3回です。
 午後6:30~7:30まで
 但し、ICU室への面会は30分以内に限定させていただきます。

■ 診療案内

休診日 土曜日・日曜日・祝日
 年末年始 (12月29日~1月3日)・創立記念日 (11月6日)

■ 所在地

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
 TEL (052)201-5311 FAX (052)201-5318

編集後記



数年前にタイ米や米粒状のこんにやくをご飯と一緒に食べたのを覚えていらっしゃいますか？今年は冷夏で米が不作のため米泥棒や秋の果物まで盗難され今の日本どこか変ですよ？医療界も相次ぐ医療事故を報道しています。わが名城病院も7月に病院機能評価を受審しました。その内容については院長が解りやすく述べております。「良い医療を安全確実に」を職員一人一人が常に念頭におき、この病院機能評価は終わりではなくスタートであり継続していくものと願っています。 (文責 I・S)